

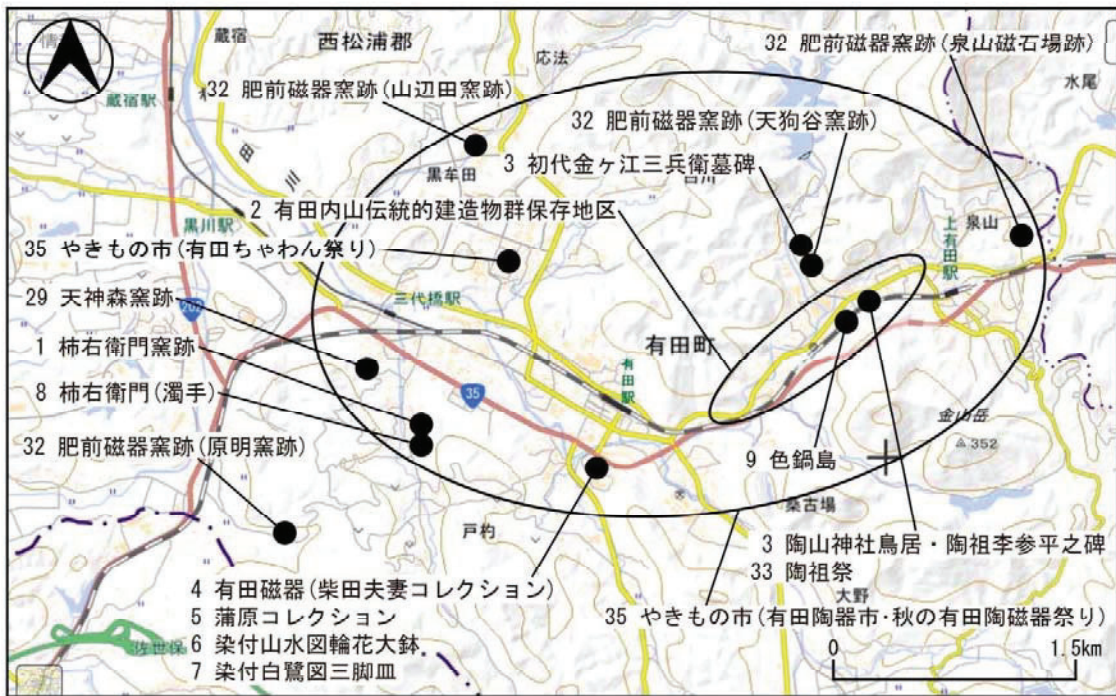
① 申請者	◎佐賀県、 (唐津市、伊万里市、武雄市、嬉野市、有田町) 長崎県 (佐世保市、平戸市、波佐見町)	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E	
③ タイトル				
【日本磁器のふるさと 肥前 ～百花繚乱のやきもの散歩～】				
④ ストーリーの概要 (200字程度)				
<p>陶石、燃料(山)、水(川)など窯業を営む条件が揃う自然豊かな九州北西部の地「肥前」で、陶器生産の技を活かし誕生した日本磁器。肥前の各産地では、互いに切磋琢磨しながら、個性際立つ独自の華を開かせていった。その製品は全国に流通し、我が国の暮らしの中に磁器を浸透させるとともに、海外からも賞賛された。</p> <p>今でも、その技術を受け継ぎ特色あるやきものが生み出される「肥前」。青空に向かってそびえる窯元の煙突やトンバイ塀は脈々と続く窯業の営みを物語る。この地は、歴史と伝統が培った技と美、景観を五感で感じることのできる磁器のふるさとである。</p>				
⑤ 担当者連絡先				
担当者氏名				
電 話		FAX		
E-mail				
住 所				



構成文化財の位置図 (地図等)



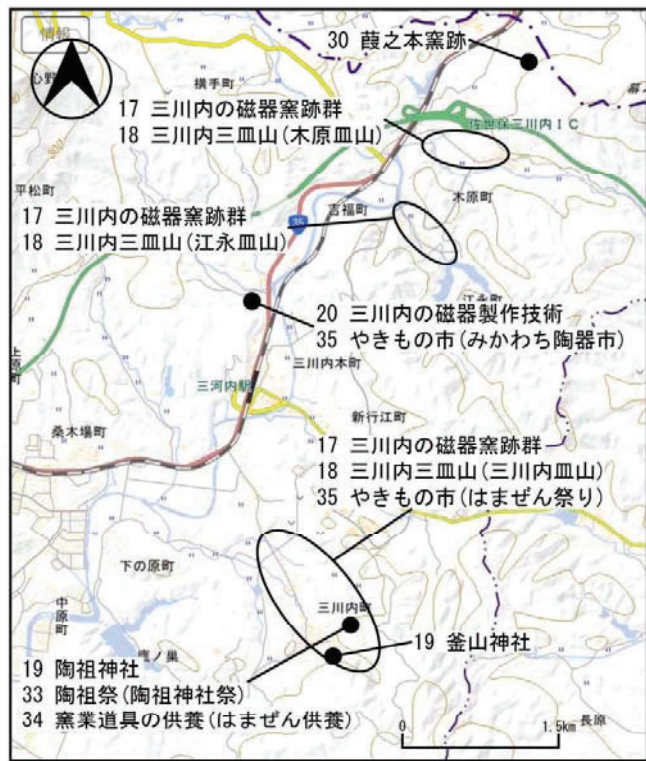
- |                             |                   |
|-----------------------------|-------------------|
| 10 : 大川内鍋島窯跡                | 32 : 肥前磁器窯跡       |
| 11 : 大川内山                   | a : (百間窯跡)        |
| 12 : 旧犬塚家住宅 伊万里津            | b : (不動山窯跡)       |
| a : 旧犬塚家住宅                  | 33 : 無縁塔祭         |
| b : 伊万里津                    | 34 : 窯業道具の供養(筆供養) |
| 13 : 旧戸渡嶋神社灯籠・手水鉢(現伊万里神社)   | 35 : やきもの市        |
| 14 : 嬉野の磁器窯跡群               | a : (春の窯元市)       |
| a : (吉田)                    | (鍋島藩窯秋祭り)         |
| b : (志田)                    | b : (肥前吉田焼陶器まつり)  |
| c : (不動山)                   | (吉田焼辰祭り窯元市)       |
| 15 : 志田焼の里博物館(旧志田陶磁器株式会社工場) | c : (唐津やきもんまつり)   |
| 27 : 肥前陶器窯跡(御茶盃窯跡)          | (唐津焼秋の窯元ツーリズム)    |
| 28 : 茅ノ谷 1号窯跡               | d : (武雄の紅葉と窯跡巡り)  |
| 31 : 中野窯跡                   |                   |



有田エリア



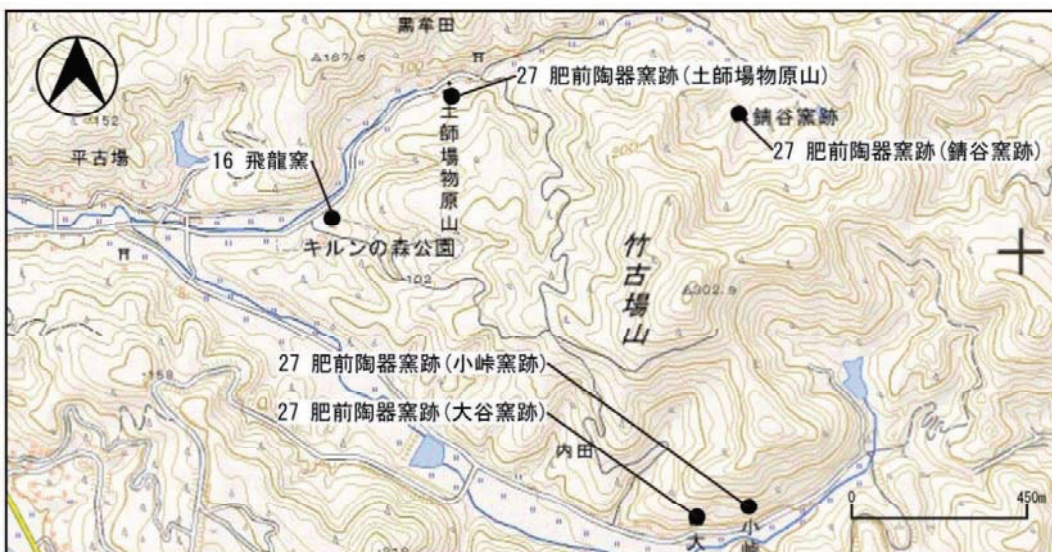
波佐見エリア



佐世保エリア



北波多エリア



武雄エリア

ストーリー

◆肥前窯業の始まりと日本磁器生産の幕開け

16世紀末頃、九州北部の唐津市北波多周辺では陶器(唐津焼)の生産が行われていたが、そこへ「文禄・慶長の役(1592~1598)」の際に肥前の各大名が朝鮮半島から連れ帰った陶工の技術が加わり、伊万里・有田・武雄・三川内・波佐見など周辺各地へと産地が拡大した。そして1616年、朝鮮陶工の一人、金ヶ江三兵衛(李参平)が、磁器の材料となる良質の陶石を有田の泉山磁石場で発見し、日本の磁器生産が始まったとされる。こうして肥前の窯業は、日本のやきものの歴史に大きな一歩を踏み出した。



泉山磁石場

当時の日本において、白く光沢があり強度に優れた磁器の生産は、大きな技術革新であり、その白さは、色鮮やかで繊細な模様を描くことを可能にした。これにより、陶器や木製食器に加え、多彩な図柄が描かれた磁器を季節や料理にあわせて使い分けるなど、料理と器をともに楽しむ日本の食文化に新たな要素が加わることとなった。



連房式の登り窯(畑ノ原窯跡)

◆百花繚乱の産地形成

有田で芽吹いた磁器生産の技術は、各地での新たな陶石の発見を経て、三川内や波佐見、伊万里、嬉野でも発展し、これらの産地ではいわゆる肥前式と呼ばれる連房式の登り窯や共通の道具を使いながらも、それぞれの個性を際立たせるため、互いに技術を競いながら独自の華を開かせていく。



有田焼(柿右衛門様式)  
色絵花鳥文皿  
佐賀県立九州陶磁文化館所蔵



有田焼(金欄手様式)  
色絵赤玉雲龍文鉢  
佐賀県立九州陶磁文化館所蔵

磁器発祥の地・有田では、当初は陶器と磁器を同じ窯で作っていたが、間もなく佐賀藩の主導により磁器専門の産地となり、乳白色の素地に余白を生かしつつ繊細な絵付けを施した柿右衛門様式や、金などの鮮やかな色を使った豪華絢爛な金欄手様式など、日本独自の色絵磁器が誕生した。



鍋島焼(色鍋島)  
色絵鶴鴿文皿  
佐賀県立九州陶磁文化館所蔵



三川内焼  
染付三段重ね透彫紋入香炉

伊万里と三川内には、それぞれ佐賀藩、平戸藩が経営する御用窯が置かれ、将軍家への献上品など採算を度外視した最高級品が生産された。伊万里の大川内山では、精緻な線描きの染付による鍋島染付(藍鍋島)や、染付の藍に赤、緑、黄の三色の色絵を原則とする色鍋島、さらには釉薬を厚く掛けた深い青緑色の色調を特徴とする鍋島青磁などの鍋島焼が生み出された。また、平戸の中野から窯が移された三川内では、白磁をベースに繊細な彫刻で仕上げた技巧性の高い透かし彫りや卵の殻のように光にかざすと透けて見えるほど薄い卵殻手が作られた。

一方、巨大な登り窯により大量生産に成功した波佐見は、高価であった磁器を庶民の器へと変貌させた。このことは、江戸時代の日本各地の都市から農村に至る遺跡のほとんどで波佐見焼が出土していることからもうかがえる。



波佐見焼  
くらわんか碗



吉田焼  
色絵印判手仙境図大皿  
佐賀県立九州陶磁文化館所蔵



志田焼  
染付象唐子文輪花大皿  
佐賀県立九州陶磁文化館所蔵

また、嬉野では、中国で作られていた磁器の図柄に似せた吉田焼の色絵や、

オリーブ色が特徴の不動山の青磁、人物や動物を戯画的に表現した染付皿を中心とする志田焼が作られた。こうした肥前磁器の製品は、主に伊万里津から積み出されて国内各地に流通し、その軽さや割れにくさといった使い勝手の良さから、わが国の暮らしの中に浸透していった。また、その一部は長崎を経由して東南アジアやヨーロッパなど海外にも輸出され、ヨーロッパの王侯貴族をも魅了し、マイセンなどの磁器生産にも大きな影響を与えた。

#### ◆肥前窯業が育んだ景観と暮らし

400年にわたり紡がれてきた肥前窯業の歴史や文化は、地域の景観のなかに今なお息づいている。陶工の里である各地では、窯業の発展に欠かすことのできない陶石などの原料や水を提供してきた美しい山々を背景に、そのふもとに集落が連なり、古窯跡やレンガ造りの煙突、登り窯に用いたレンガや陶片を赤土に埋め込んだトンバイ塀が残り、橋の欄干など随所にやきものが使われている。



有田の裏通りなどに残るトンバイ塀

古い商家や洋館、多くの窯元の町屋が連なる趣深い町並みを残す有田の内山地区、山々に囲まれた水墨画のような幽玄な景観の中に窯元が建ち並ぶ伊万里の“秘窯の里”大川内山、代官所跡や運搬に使われた馬車道などに御用窯の栄華が偲ばれる三川内三皿山、世界最大の登り窯である大新登窯跡とともに山あいの窯元の家並みが残る波佐見の“陶郷”中尾山など、各産地ではそれぞれに近世から続く肥前窯業の悠久の息づかいが今なお感じられる。さらに、大正期から操業した嬉野の旧志田陶磁器株式会社工場や昭和初期に建てられた波佐見の旧福幸製陶所など、近代以降の窯業の営みを今に伝える建物も数多く見ることができる。



秘窯の里 大川内山

また、窯業は地域の暮らしにも深く根付いている。礎を築いた陶工たちを大切に祀る陶祖祭など、窯業に関わる伝統行事が各地で受け継がれているほか、料理を彩り引き立てる器を贅沢に使い、楽しみ、客をもてなす文化が育まれている。波佐見では、窯焼き職人が食していた「冷汁」が現在でも郷土料理として伝えられている。



陶郷 中尾山

#### ◆歴史を刻み続けるやきものの里

肥前窯業の各地域では、現在でも窯業が地域産業の中核を担っており、互いに産地の特色を意識しながら技術の継承と向上に努めている。

100年以上の歴史を持つ有田陶器市をはじめ、伊万里、波佐見、唐津、佐世保（三川内）、嬉野、武雄の各地で開かれるやきもの市は、多くの人々が訪れる一大イベントとなっており、好みのやきものを求め散策しながら、作陶や絵付けも楽しむことができる。武雄の巨大な登り窯・飛龍窯や波佐見の畑ノ原窯跡の復元窯のほか、各窯元で行われる昔ながらの薪窯焼きは、伝統技術に触れることのできる貴重な機会となっている。



旧福幸製陶所

また、かつてヨーロッパに渡った肥前磁器の一部は、生産地である故郷に里帰りしており、海外進出の歴史を物語るコレクションとして佐賀県立九州陶磁文化館などで展示され、世界中からの来訪者の目を楽しませている。



やきもの市(鍋島藩窯秋まつり)

この地は、400年もの長い窯業の歴史の中で培われた伝統や技術、景観や文化などの魅力を体感できる日本随一の地域である。

## ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	柿右衛門窯跡	国史跡	有田の南川山にある 17 世紀後半に操業した連房式登り窯の磁器窯跡。後に続く南川原窯ノ辻窯とともに「柿右衛門様式」の優品を中心的に生産した。	佐賀県有田町
②	有田内山伝統的建造物群保存地区	国重要伝統的建造物群保存地区	白漆喰の伝統的な町屋や洋館など、江戸時代後期から昭和期の特徴的な建物が連なる有田町東部の地区。 有田の窯業の隆盛は、有田に裕福な町人文化を育て、中でも磁器生産の中心地であった内山地区には多くの窯元ややきもの商家が建ち並んだ。文政 11 年 (1828) に大火にみまわれたが間もなく復興され、近代になると洋風建築も加わった。	佐賀県有田町
③	初代金ヶ江三兵衛墓碑 陶山神社鳥居 陶祖李参平之碑	墓碑は有田町史跡 鳥居は国登録有形文化財 (建造物)	有田町内の墓地には、有田焼の陶祖とされる金ヶ江三兵衛 (李参平) の墓碑が残る。 また、陶祖を祀る陶山神社には、染付で全体に唐草文様が施された磁器製の鳥居 (明治 21 年 (1888) 奉納) があり、神社の山の中腹の有田町内が一望できる場所には、顕彰碑「陶祖李参平之碑」が有田焼創業 300 年を記念して大正 7 年 (1918) に造立されている。	佐賀県有田町
④	有田磁器 (柴田夫妻コレクション)	国登録有形文化財 (美術工芸品)	網羅的・体系的に収集された有田磁器のコレクション。柴田明彦・祐子夫妻から佐賀県立九州陶磁文化館に寄贈され、同館で常設展示されている。 点数は 10,311 点に及び、磁器生産の始まった江戸時代初期から幕末に至る有田磁器を中心に、その歴史的変遷がわかるように、様々な種類の作品が網羅的に揃っていることが大きな特徴である。	佐賀県有田町
⑤	蒲原コレクション	未指定	江戸時代にヨーロッパに輸出された、華やかで豪華絢爛な金襴手様式の作品を中心とする有田焼のコレクション。有田町出身の蒲原権氏がヨーロッパ各地で収集し、有田町に寄贈された。計 101 点。現在は佐賀県立九州陶磁文化館で常設展示されている。	佐賀県有田町

⑥	染付山水図輪花大鉢 <small>ぞめつけさんすいずりむかおおぼら</small>	国重要文化財 (工芸品)	有田の山辺田窯で 1640～50 年代に作られた染付の優品。有田磁器の技術革新を示す名品とされる。佐賀県立九州陶磁文化館所蔵。	佐賀県有田町
⑦	染付白鷺図三脚皿 <small>ぞめつけしらきぎざんきかくさら</small>	国重要文化財 (工芸品)	伊万里の大川内山に置かれた佐賀藩の御用窯で 1690～1710 年代に作られた鍋島焼(鍋島染付)の傑作。佐賀県立九州陶磁文化館所蔵。	佐賀県有田町
⑧	柿右衛門(濁手) <small>かきえもん にごして</small>	国重要無形文化財 (工芸技術)	有田の陶工酒井田家では、正保 4 年(1647)に初代柿右衛門が赤絵(色絵)の焼成に成功し、17 世紀後半には濁手と呼ばれる乳白色の素地に余白をいかにして非対称の構図で上絵を配した「柿右衛門様式」を確立した。	佐賀県有田町
⑨	色鍋島	国重要無形文化財 (工芸技術)	伊万里の大川内山に置かれた佐賀藩の御用窯では、最高級の方法と技術者によって鍋島焼と呼ばれる最高級品が生産された。中でも染付の藍に赤・緑・黄の色絵を施す色鍋島はその代表的な様式である。	佐賀県有田町
⑩	大川内鍋島窯跡 <small>おおかわち</small>	国史跡	佐賀藩が肥前磁器の製作技術を結集し 1660 年代頃に伊万里の大川内山に設置した藩営の御用窯跡。窯跡のほか、物原、御細工場跡、藩役宅跡、陶工屋敷跡群など古絵図にある遺構や地形が良好に残る。 ここで生産された磁器(鍋島焼)は、将軍家への献上や諸大名への贈答を目的とした最高級品であり、一般市場に出回ることにはなかったといわれる。	佐賀県伊万里市
⑪	大川内山 <small>おおかわちやま</small>	未指定	1660 年代頃に鍋島藩直営の御用窯が築かれた伊万里の大川内山地区では、現在も 30 の窯元が軒を連ねている。急峻な山々に囲まれた狭い谷間にトンバイ堀やレンガ造りの煙突、窯元が建ち並び、その背後に青螺山がそびえる山水画のような幽玄な風景は「秘窯の里」としての雰囲気醸し出している。	佐賀県伊万里市
⑫	旧犬塚家住宅 伊万里津 <small>いぬづか</small>	住宅は伊万里市有形文化財	文政 8 年(1825)に伊万里津に建てられたやきもの商家の旧宅を修理復元したもの。伊万里津はやきもの積出港として栄え、千軒在所といわれるほど数多くの白壁土蔵造の商家が建ち並んでいた。 現在、この建物は「伊万里市陶器商家資料館」として、かつての伊万里津の賑わいや商いの様子を伝えている。	佐賀県伊万里市
⑬	旧戸渡嶋神社灯籠・手水鉢 <small>ととしま とうろう ちょうず</small> <small>ばち</small>	未指定	文化 11 年(1814)に海上安全守護のためやきもの積出港として栄えた伊万里津の戸渡嶋神社に寄進された灯籠と手水鉢。	佐賀県伊万里市

	(現伊萬里神社)		<p>石灯籠は筑前商人関係者から、手水鉢は紀州商人からの寄進で、伊万里津を拠点としたやきものの流通に全国各地の商人が深く関わっていたことを示している。</p> <p>なお、戸渡嶋神社は現在、伊萬里神社に合祀されている。</p>	
⑭	うれしの 嬉野の磁器窯跡群	一部国史跡	<p>17世紀以降の嬉野市内の吉田や志田、不動山で営まれた磁器窯跡群で、いずれも連房式の登り窯である。</p> <p>17世紀から操業した吉田焼の窯では中国の呉須赤絵に似せた色絵磁器を生産し、一部は東南アジアにも輸出された。1700年頃から始まった志田焼は、幕末には5基の連房式登り窯によって染付を中心とした皿類が大量に生産された。不動山の窯跡は確認されているだけで5基を数え、17世紀後半に芙蓉手の染付皿や青磁製品などが焼成された。</p>	佐賀県嬉野市
⑮	しだ 志田焼の里博物館 (旧志田陶磁器株式会社工場)	未指定	<p>嬉野で大正期から昭和50年代まで操業した志田陶磁器株式会社の工場。陶土製造から焼成までのすべての工程を大規模に行っていた。志田は波佐見と同様に庶民向けの器の大量生産供給地であり、工場跡には国内最大級の石炭窯も残る。</p> <p>現在は「志田焼の里博物館」となっており、原料加工から焼成までの作業工程など往時の姿を見ることができ</p>	佐賀県嬉野市
⑯	ひりゅう 飛龍窯	未指定	<p>陶器(唐津焼)の一大産地であった武雄市黒牟田地区に陶芸の里武雄の拠点として作られた、世界一の容積を誇る連房式の登り窯。飛龍窯のある竹古場キルンの森公園内には、利用可能な登り窯「向窯」もあり工房ではろくろや楽焼体験ができ、陶芸教室も行われている。毎年2月には、数千本の灯ろうを一斉に点灯させる「TAKEO・世界一飛龍窯灯ろう祭り」が開催される。</p>	佐賀県武雄市
⑰	みかわ 三川内の磁器窯跡群	未指定	<p>平戸藩では、寛永10年(1633)に針尾島(佐世保市)で磁石場が発見されると、長葉山窯で初めて磁器の生産が行われた。慶安3年(1650)には中野窯の陶工たちを三川内皿山に移し、藩営の御用窯の体制を強化した。17世紀後半から稼働した御用窯の三川内東窯跡、三川内西窯跡は連房式登り窯で、その操業は昭和期まで続いた。また、江永皿山、木原皿山でも民窯で磁器の生産が行われた。現在でもそれ</p>	長崎県佐世保市

			らの痕跡が残されている。	
⑱	三川内三皿山 みかわちさんざらやま	未指定	三川内焼の産地であった三川内、江永、木原の三地区の皿山。窯跡やトンバイ塀、レンガ造りの煙突のほか、古い家並みや昔ながらの道筋が残り、現在でも窯元が建ち並ぶ。 中でもその中心である三川内皿山には、平戸藩の御用窯であった東窯・西窯跡のほか、その優れた技術を伝承するために明治期に開設された三川内陶磁器意匠伝習所跡や、昭和期に操業した今由製陶所窯跡などが残る。	長崎県佐世保市
⑲	陶祖神社 釜山神社 とうそ かまやま	未指定	三川内焼の発展に貢献した先人を敬い祀る神社。陶祖神社には平戸藩御用窯二代目の今村弥治兵衛(如猿)が、天満宮内の釜山神社には伊万里から陶工たちを連れて移って来たといわれる三川内の陶祖の一人、高麗媼(中里エイ)が祀られている。	長崎県佐世保市
⑳	三川内の磁器製作技術 みかわちの磁器製作技術	一部は佐世保市無形文化財	三川内の平戸藩御用窯で高級品を生産するため培われた技術。現在も三川内の窯元に受け継がれ、様々な製品が生み出されている。 竹篋等で切り取り格子や花卉の模様など細かな装飾を作り出す透かし彫りや、卵の殻のように透けるほど薄く削る卵殻手(薄胎)は三川内を代表する技法である。このほか、菊花飾細工や捻り細工、置き上げなどの細工技術や器の内部に繊細な山水画を施した内山水絵技術、松に牡丹と戯れる唐子を配した図柄の染付技術など多様である。	長崎県佐世保市
㉑	肥前波佐見陶磁器窯跡 ひまきみ	国史跡	波佐見で 16 世紀末から近代にかけて操業した窯跡。いずれも連房式の登り窯で、現在までに 36 基が確認されている。 波佐見焼の窯の大きな特徴の一つが、大量生産を可能とした世界最大級の巨大な登り窯である。「くらわんか手」と呼ばれる簡素な磁器は江戸時代後期を中心に国内各地に流通し、高価だった磁器の大衆化に大きく貢献した。	長崎県波佐見町
㉒	智恵治窯跡 ちえぢ	長崎県史跡	また、明治期に開窯し改修を経ながら戦後まで操業した智恵治窯跡は、窯の天井部まで現存しており、伝統的な登り窯の構造を伝える貴重な窯跡である。	長崎県波佐見町

⑳	陶郷・中尾山	未指定	波佐見焼の産地として江戸時代初期から現代まで連綿と続く窯業集落。 世界最大級の登り窯跡や、明治期のやきもの卸商家である中尾山うつわ処赤井倉のほか、レンガ造りの煙突やトンバイ塀などが残り、現在でも窯元が操業を続けている。	長崎県波佐見町
㉑	福重家住宅主屋・旧福幸製陶所	国登録有形文化財 (建造物)	波佐見で磁器を生産した福幸製陶所とその経営者である福重家の建物群で、いずれも昭和初期の築造。「福重家住宅主屋」及び「旧福幸製陶所事務所」・「旧福幸製陶所細工場」・「旧福幸製陶所絵書座」からなり、波佐見焼を代表する製陶工場の様相を伝えている。 現在、旧福幸製陶所の建物群はカフェや雑貨店として活用されている。	長崎県波佐見町
㉒	波佐見の生地成形技術	未指定	波佐見における日用磁器の生地(素焼き前の器)を成形する技術。 江戸時代、波佐見では蹴轆轤による生地の成形技術を高度化させ、磁器の大量生産を可能とした。その技術を背景に、近代以降には鋳込み成形や機械轆轤成形など新たな技術を導入し、肥前における生地生産の中核として発展を遂げた。現在も肥前一带に生地を供給し続け、肥前磁器生産の「裏方」的役割を担っている。	長崎県波佐見町
㉓	冷汁	未指定	波佐見に伝わる伝統的な郷土料理で、キュウリなどの夏野菜を使った味噌ベースの汁を御飯の上にかけたもの。 窯に薪をくべ火力を調整する窯焚き職人たちが暑い夏場に好んで食したといわれる。	長崎県波佐見町
㉔	肥前陶器窯跡	国史跡	16世紀末以降に陶器(唐津焼)を生産した窯跡群。 肥前の窯業の歴史は、1580年代頃に朝鮮半島の技術を導入した陶器(唐津焼)の窯が岸岳城(唐津市北波多)周辺にできたことで始まる。間もなく「文禄・慶長の役」での岸岳城主・波多氏の改易による陶工離散や、各大名が朝鮮半島から陶工らを連れ帰ったことにより、その生産地は肥前各地へと拡大した。窯跡はいずれも朝鮮半島の技術に由来する割竹式や連房式の登り窯である。	佐賀県唐津市、武雄市
㉕	茅ノ谷1号窯跡	佐賀県史跡	肥前地域での陶器(唐津焼)の生産	佐賀県伊万里市
㉖	天神森窯跡	未指定		佐賀県有田町
㉗	葭之本窯跡	長崎県史跡		長崎県佐世保市

①	中野窯跡	長崎県史跡	は、江戸時代以降も継承されていく一方で、その技術を母体として、この地で日本初の磁器の焼成が開始されることとなる。	長崎県平戸市
②	肥前磁器窯跡	国史跡	17世紀前半の磁器生産初期段階に操業した窯跡群及び泉山磁石場跡。窯跡はいずれも連房式登り窯である。 磁器は当初、陶器窯の中で陶器とともに焼成されたが、寛永14年(1637)に佐賀藩が有田一帯の陶器窯を廃して窯場の整理・統合を行った。これを境に有田は磁器専門の産地へとシフトすることになった。	佐賀県有田町、武雄市、嬉野市
③	陶祖祭 無縁塔祭	未指定	有田、波佐見、三川内の各地域では、それぞれの陶祖を敬い偲ぶ陶祖祭(陶祖神社祭)が毎年5月に営まれている。また、伊万里の大川内山では毎年4月に、江戸時代の陶工たちを祀る供養塔で無縁塔祭が行われ、先人の偉業をたたえている。	佐賀県有田町、伊万里市 長崎県佐世保市、波佐見町
④	窯業道具の供養	未指定	三川内では毎年5月にやきものの焼成に使う円盤型の使い捨ての台「はまぜん」の供養が、また伊万里では毎年11月にやきものの絵付けに使用する筆の供養が行われている。	佐賀県伊万里市 長崎県佐世保市
⑤	やきもの市	未指定	肥前窯業の各産地で行われるやきもの市で、例年多くの来場客で賑わっている。 中でも有田町で毎年4月29日～5月5日の一週間にわたって行われる有田陶器市は、明治29年(1896)の有田五二会陶磁器品評会以来100年以上の歴史を有し、大正期から現在の陶磁器販売市の形が加わった。 ＜有田町＞有田陶器市(4,5月)、秋の有田陶磁器祭り、有田ちゃわん祭り(11月) ＜伊万里市＞春の窯元市(4月)、鍋島藩窯秋祭り(11月) ＜嬉野市＞肥前吉田焼陶器まつり(4月)、吉田焼辰祭り窯元市(11月) ＜唐津市＞唐津やきもんまつり(4,5月)、唐津焼秋の窯元ツーリズム(11月) ＜武雄市＞武雄の紅葉と窯元巡り(10～11月) ＜佐世保市＞はまぜん祭り(5月)、みかわち陶器市(10月) ＜波佐見町＞波佐見陶器まつり(4,5月)、桜陶祭(4月)	佐賀県有田町、伊万里市、唐津市、武雄市 長崎県佐世保市、波佐見町

- (※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。
- (※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。
- (※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。
- (※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

## 構成文化財の写真一覧

① 柿右衛門窯跡



③ 陶山神社鳥居



② 有田内山伝統的建造物群保存地区



③ 陶祖李参平之碑



③ 初代金ヶ江三兵衛墓碑



④ 有田磁器 (柴田夫妻コレクション)



⑤蒲原コレクション



⑧柿右衛門 (濁手)



⑥染付山水図輪花大鉢



⑨色鍋島



⑦染付白鷺図三脚皿



⑩大川内鍋島窯跡



⑪大川内山



⑬旧戸渡嶋神社手水鉢 (現伊萬里神社)



⑫旧犬塚家住宅 (手前の建物)、伊万里津



⑭嬉野の磁器窯跡群  
(上福 2 号窯跡)



⑬旧戸渡嶋神社灯籠 (現伊萬里神社)



⑮志田焼の里博物館  
(旧志田陶磁器株式会社工場)



⑩飛龍窯



⑪陶祖神社



⑫三川内の磁器窯跡群  
(三川内東・西窯跡)



⑬釜山神社



⑭三川内三皿山  
(三川内皿山)



⑮三川内の磁器製作技術  
(透かし彫り)



撮影／大川裕弘

⑳三川内の磁器製作技術  
(卵殻手(薄胎))

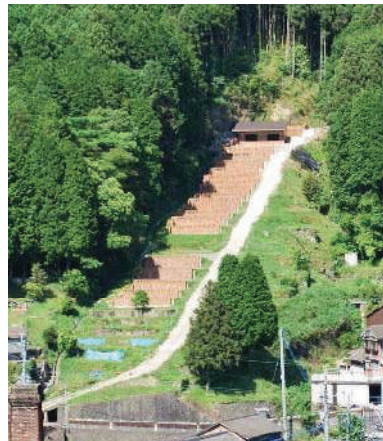


撮影/大川裕弘

㉑肥前波佐見陶磁器窯跡  
(畑ノ原窯跡)



㉑肥前波佐見陶磁器窯跡  
(中尾上登窯跡)



⑳三川内の磁器製作技術  
(菊花飾細工)



撮影/大川裕弘

⑳三川内の磁器製作技術  
(唐子染付)



撮影/大川裕弘

㉒智恵治窯跡



②③ 陶郷・中尾山



②⑤ 波佐見の生地成形技術



②④ 福重家住宅主屋



②⑥ 冷汁



②④ 旧福幸製陶所



②⑦ 肥前陶器窯跡  
(御茶盃窯跡)



⑳茅ノ谷 1 号窯跡



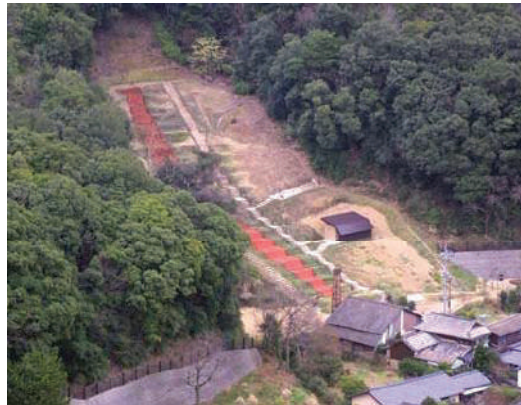
㉑中野窯跡



㉒天神森窯跡



㉓肥前磁器窯跡  
(天狗谷窯跡)



㉔葎之本窯跡



㉕肥前磁器窯跡  
(泉山磁石場跡)



③③陶祖祭  
(波佐見町)



③④窯業道具の供養  
(筆供養)



③③無縁塔祭



③⑤やきもの市  
(有田陶器市)



③④窯業道具の供養  
(はまぜん供養)



撮影/松尾宏也

③⑤やきもの市  
(波佐見陶器まつり)



## 日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
37	日本磁器のふるさと 肥前 ～百花繚乱のやきもの散歩～

## (1) 将来像 (ビジョン)

## 1. 日本遺産を活用してどのような地域を目指すのか

肥前地域のやきもの歴史は、1580年頃、現在の唐津市北波多に大名が朝鮮から陶工を招き窯を開いたことに端を発すると言われる。日本遺産「日本磁器のふるさと肥前」では、窯業を営むことに適した自然条件に加え、佐賀県有田町泉山で肥前窯業の源流が生まれたことで、肥前地区一帯で個性際立つ独自の華を咲かせ陶器と磁器の生産が広がっていった。400年にわたり紡がれてきた歴史は美しい山々を背景とした集落やトンバイ堀等地域の景観にも見ることができ、肥前窯業の悠久の息遣いが今も感じられるエリアとなっている。

肥前窯業圏の位置する佐賀・長崎エリアは、西九州新幹線が開業するなど、全国から注目を集めているのに加え、福岡都市圏とも近接しており文化・観光を通じ高い経済効果・波及効果を生む可能性を持つ。これらのチャンスを活かし、先人たちが育てきた「肥前やきもの圏」の魅力や伝統が、地域住民の一層の誇りの醸成につながるよう適切に保存・活用・継承し、肥前地域のやきものに親しみを感じられる地域の実現を目指す。

また、日本遺産を活用して地域活性化を図っていく上では、域内外から多くの方に来訪いただき、その魅力や伝統、ストーリーを五感で感じてもらうことが重要であり、窯元のほか観光・飲食業などとも連携し、民間事業者がそれぞれの役割を担いストーリーを発信する必要がある。その結果、来訪者が繰り返し肥前窯業圏を訪れ、交流人口が増えていくことで、民間事業者だけでなく地域住民などにも波及効果が生まれていくような地域を目指す。

## 2. 総合計画における役割

佐賀県のさがさいこうビジョンでは、本物の地域資源の一つとして「陶磁器」を示し、その価値を再認識し、伝えることで価値を輝かせることを明記している。長崎県の長崎県総合計画チェンジ&チャレンジ2025では日本遺産「肥前窯業圏」を特色ある文化資源による地域活性化等の政策展開に活用することを明記している。構成市町でも、伊万里市で第6次総合計画・後期総合計画に、嬉野市で第2次総合計画(後期)に、有田町で第2次有田町総合計画2018～2027・第2次有田町総合計画後期基本計画2023～2027に、佐世保市で第7次佐世保市総合計画・後期基本計画に、日本遺産の定めがある。

## (2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①－A：肥前窯業圏の主要文化施設の来訪者数						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	256,329人	258,500人	215,156人 (4月～1月末までの数値。飛龍窯(武雄市)のみ12月末まで)			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	259,000人	244,000人	245,000人	262,000人	263,000人	264,000人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>地域住民や国内外からの観光客が、圏域内のコンテンツを通してやきもの圏の魅力やストーリーに触れたことを把握するため、特にストーリーが感じられる各エリアの主要文化施設<sup>(※)</sup>の来訪者数を集計することとし、2025年度の259,000人を基準に毎年1,000人増を目標とする。(佐世保市の三川内焼伝統産業会館が改修工事のため、R8～9に一時的に閉館の予定。年間来場者数見込みの16,000人を該当2年間は数値目標から減じている。)</p> <p>(※)主要文化施設(各市町に1施設ずつ設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・唐津焼総合展示場販売場(唐津市)</li> <li>・伊万里・有田焼伝統産業会館(伊万里市)</li> <li>・飛龍窯(武雄市)</li> <li>・志田焼の里博物館(嬉野市)</li> <li>・有田町歴史民俗資料館(有田町)</li> <li>・三川内焼伝統産業会館(佐世保市)</li> <li>・松浦史料博物館(平戸市)</li> <li>・陶芸の館・観光交流センター(波佐見町)</li> </ul>					

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①－B：九州陶磁文化館の入場者数						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	34,542人	36,638人	34,837 (1月末)			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030

数値	37,000人	37,500人	38,000人	38,500人	39,000人	39,500人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	佐賀県立九州陶磁文化館は、海外からの観光客も多く訪れる陶磁器専門の博物館であり、九州各地の陶磁器を収集・展示し、肥前窯業圏を代表する総合的拠点かつ日本遺産の情報発信の中心的施設であることから、肥前窯業圏の魅力を体験した人数の把握のため、同施設の入場者数を集計することとし、2025年度の37,000人を基準に毎年500人増を目標とする。					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②-A：地域の歴史文化に誇りや愛着を感じる住民の割合						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	— (コロナ禍でイベントで調査ができなかったため)	63%	66%			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	60%以上	60%以上	60%以上	60%以上	60%以上	60%以上
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産のストーリーを誇りに思う地域住民の割合を把握するため、60%以上を維持する目標を設定し、協議会主催のイベント等を通じたアンケート等を実施する。					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：6年後に、窯ガチャの年間の売上260万円を達成						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	173万円	204万円	204万円 (現状)			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	210万円	220万円	230万円	240万円	250万円	260万円
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	肥前窯業圏の魅力である産地毎に異なるやきもの文化の違いに触れ、親しんでもらうためのツールであるやきものミニチュアアイテムの窯ガチャ売上を、2025年度の210万円を基準に毎年10万円アップを目標とする。					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：棄損滅失なく構成文化財が保存されている割合						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	100%	100%	100%			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	100%	100%	100%	100%	100%	100%
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産「肥前やきもの圏」のストーリーを体験いただくためには、構成する各文化財が適切に保存・活用されていることが重要であるため、棄損や滅失なく保存されている構成文化財数の割合により、目標達成状況を把握する。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：日本遺産協力団体・企業数（累計）						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	—	—	—			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	20件	20件	20件	20件	20件	20件

指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	地域一体となった事業展開のために、協議会のイベント支援への参画など様々な形で関わる協力団体・企業の数を目指し、毎年20件を目標とする。
---------------------	---

### (3) 地域活性化のための取組の概要

「日本磁器のふるさと 肥前」には、多種多様なやきもの文化が各産地において脈々と受け継がれており、そのストーリーや特色・違いが地域の大きな強みとなるコンテンツである。それらを地域内・外の方に幅広く知っていただき、体感していただくことで、本エリアの活性化へとつながっていくと考える。

これを踏まえ、これまでに、

- ・ 組織体制や財源など、協議会の安定運営のための基盤整備
- ・ メディアや SNS 等のツールをはじめ、イベントやシンポジウム等を利用した情報発信
- ・ ガイドの現地研修、教育機関と連携した取組等の人材育成
- ・ 事業戦略の策定
- ・ 案内板や HP の製作・多言語化、等 受入体制構築
- ・ 体験コンテンツや旅行商品等の開発による民間事業者との協力
- ・ 伝統的建造物群の保存・整備・活用
- ・ 周遊パスポートの作成やアフィリエイト、「窯ガチャ」等による協議会での収益確保等の事業に継続して取り組んできた。

その成果として、

- ・ 圏域内の主要文化施設において入館者数が増加し、圏域内に人を呼び込めるようになったほか、産地及び自治体間の連携体制の構築や、継続性のある産地間イベントが構築されるなど、ストーリーを感じていただけるようなコンテンツを造成できた。
- ・ 日本遺産ガイドの育成や圏域内のモデルコースの造成、周遊を促すツールの作成など、日本遺産を感じていただけるような受入体制も徐々に構築することができている。

一方で、

- ・ 協議会での収益事業を検討し実行しているが、協議会の運営を安定的に行えるほどの十分な収益を得られていない。
- ・ 情報発信等でやきもの文化の PR を行っているが、日本遺産自体の認知向上につなげられていない。
- ・ 顧客・誘客ターゲット層に向けた事業の拡大や、経済効果につながる仕組みづくりの必要性。
- ・ 外部専門家との連携による観光事業化のさらなる視点拡大。

のような課題が明らかになった。

これらの取組や明らかになった課題、各県・市町の総合計画等に掲げる将来像を踏まえ、日本遺産を活用しながら、多くの方が肥前窯業圏の歴史や文化の素晴らしさを再発見・再認識できるよう次の事業に取り組み、肥前窯業圏の更なる活性化を推進していく。

**【取組 1：協議会事業の推進体制の強化】**

- ・日本遺産や肥前窯業圏を活用した取組を継続しながら協議会が引き続いて機能して事業を行えるよう、財源・収益の確保、検討を行う。具体的には、協議会での収益事業実施に加え、構成市町からの協議会負担金の徴収、新しい地方経済・生活環境創生交付金の活用等による財源確保を行う。また、専門家などのオブザーバーと連携することで、知見やノウハウの蓄積を図る。

**【取組 2：産地の収益やコンテンツの強化及び産地間の連携・周遊の促進】**

- ・今後も肥前エリアの窯業文化を継承していくため、窯元・陶磁器商社等への支援施策、産地への来訪や購買の促進を進める。
- ・具合的には、産地間を周遊でき、個性・特色やストーリーを感じることができる体験型コンテンツの造成や、旅行商品の開発などを行い民間主体で事業を継続できるようサポートしていく。

**【取組 3：日本遺産認定を利用した地域の認知向上】**

- ・肥前窯業圏が日本遺産に認定されていることは、地域を PR するうえで大きな武器となるため、日本遺産へ認定されていることをブランドとして発信する。具体的には、各産地で行われるやきもの関係のイベントや商品開発等に合わせて PR していく。また、公開講座や SNS 等を活用して肥前窯業圏の文化やストーリーを知っていただく機会を増やしていくことや、「日本遺産」を PR する文化庁主催の関連イベントへの積極参加などを行っていく。
- ・加えて、九州内には日本遺産に認定されている地域が多くあり、こうした日本遺産間の相互の連携も進めていく。

**【取組 4：大規模イベント・キャンペーン等を活用した認知向上】**

- ・令和 7 年の国民文化祭（長崎県開催）、民間企業と協働で開催する大規模陶磁器イベント等により域内に多くの方が訪れるチャンスをとらえ、上記イベント等の HP への掲載、ブースの出展などを行っていく。また、このような親和性の高い催事への出展などによりターゲット層である福岡都市圏を中心に刺さる魅力発信を展開していく。

**【取組 5：受け入れ体制の更なる整備】**

- ・これまで記載してきた体験コンテンツや旅行商品、情報発信等により集客した旅行者を受け入れ、日本遺産のストーリーに触れながら周遊や体験をしていただけるよう、受入体制の強化する施策を行う。
- ・具体的には、認定ストーリーや肥前窯業圏の解説などの表示や多言語化、日本遺産の情報発信のほか、圏域内に日本遺産を PR できる場づくりも合わせて推進する。
- ・加えて、これまで続けてきた伝統的建造物群の保存・整備・活用を引き続き推進し美しい景観活用などにより、コンテンツの増加を図る。
- ・また、陶磁器産業の地域を訪れて体感する「クラフトツーリズム」による体験造成

や歴史文化に精通したガイドの育成を行うことで、やきもののさらなるファン獲得や歴史を体感いただけるように体制を整備していく。

【取組 6：人材育成、地域における誇りの醸成】

- ・ これからも日本遺産「肥前窯業圏」を伝え、文化を継承していくためには地域を担う民間事業者や窯元などの人材を育成し、同時にそれらの人材へ日本遺産を伝えていく必要がある。そのために、日本遺産ガイドの引き続いた育成、観光・窯業関係者や旅館・ホテル関係者への日本遺産の周知や、産地の地盤強化のためのマーケティングやWEB等の研修実施等を行っていく。また、地域住民への誇りを醸成するため、学校や大学との連携を進め、陶磁器文化の普及啓発を推進していく。

【取組 7：総合戦略の改定】

- ・ 協議会のメンバーや地域が一体となって同じ方向を向いて事業を進めていけるよう、総合戦略の改定を行う。

(4) 実施体制

○協議会名：「肥前窯業圏」活性化推進協議会

○協議会役職

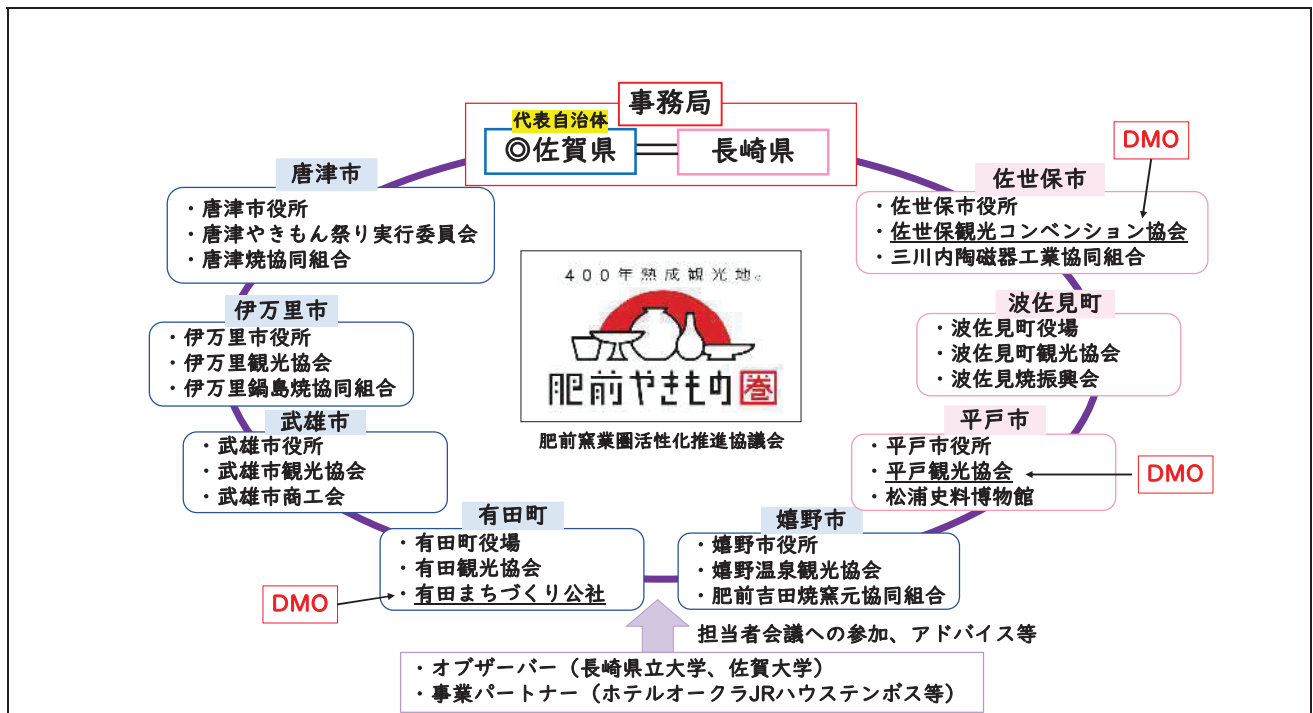
会長 佐賀県文化・観光局長  
副会長 長崎県県北振興局長、有田町商工観光課長  
事務局長 佐賀県文化・観光局文化課長

○構成団体

【民間】唐津焼協同組合、唐津やきもん祭り実行委員会、伊万里鍋島焼協同組合、一般社団法人伊万里市観光協会、一般財団法人武雄市観光協会、武雄市商工会、一般社団法人嬉野温泉観光協会、肥前吉田焼窯元協同組合、一般社団法人有田観光協会、株式会社有田まちづくり公社、日本版DMO公益財団法人佐世保観光コンベンション協会、三川内陶磁器工業協同組合、一般社団法人平戸観光協会、公益財団法人松浦史料博物館、波佐見焼振興会、一般社団法人波佐見町観光協会

【行政】佐賀県（文化・観光局文化課）、長崎県（県北振興局商工観光課）、唐津市（唐津焼振興室）、伊万里市（シティプロモーション推進課）、武雄市（商工課）、嬉野市（観光商工課）、有田町（商工観光課）、佐世保市（ふるさと物産振興課）、平戸市（文化交流課）、波佐見町（商工観光課）

【オブザーバー】佐賀大学リージョナルイノベーションセンター コーディネーター  
長崎県立大学地域創造学部実践経済学科 准教授



【人材育成・確保の方針】

- ・協議会に加え、各産地で様々な分野で活躍する人材や民間企業との更なる連携にも着手。
- ・やきもの関連の博物館等施設や学校教育機関等と連携し、地元の小中高生などを対象にしたセミナーやワークショップ、肥前窯業圏の体験型学習等による人材育成の実施。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

【取組1 構成団体の個別計画や方針等への日本遺産の位置づけ】

- ・協議会構成自治体以外の団体においても、年間計画や方針等に日本遺産ややきもの文化の活用を組み込み、さまざまな主体が、計画等に基づいて日本遺産ややきもの文化を活用した取組を推進するよう姿勢の明文化を図る。

【取組2 産地・協力団体への働きかけ】

- ・産地全体が「日本磁器のふるさと肥前」の地域資源としての価値を評価し、ともに取り組みPRしていく関係を構築すべく、協議会構成団体のほか、ストーリーに共感する経済関係団体や観光関係団体、事業者、窯元等を事業メンバーとして参画できる体制とし、日本遺産ブランドを活用した観光振興、地域振興の継続的実施の輪を拡大する。
- ・構成メンバーがそれぞれの形で行う日本遺産に関する活動を幅広く掘り起こし、域内全体で息の長い日本遺産の活用及び浸透を図る。

【取組3 専門家との連携による将来の中核人材の育成】

- ・やきもの関連の博物館等施設や学校教育機関等と連携し、地元の小中高生や大学生を対象にした普及啓発を行うことで、地域を担う人材（将来的な民間事業者や窯元等）を育成する。そのため引き続き、日本遺産ガイドの育成、観光・窯業関係者や旅館・ホテル関係者への日本遺産の普及啓発や、現地視察も取入れた研修等を行っていく。

#### 【取組 4 継続的な収益事業の実施】

- ・協議会負担金や内閣府の新しい地方経済・生活環境創生交付金のほか、協議会事業として実施している「窯ガチャ」等の収益を安定的に確保し、組織体制の整備を図る。

#### (6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

日本遺産「肥前窯業圏」を構成する構成文化財においては、これを貴重な地域振興・観光振興資源と捉え、地域活性化の要として積極的に活用することが重要である。構成文化財は、適切な修繕や整備により保存を進めながら公開・活用も行うことで、交流人口の増加につなげ、地域の経済効果・波及効果を生じさせるような仕組みづくりを一層推進していく。構成文化財を中心に地域に経済効果を生じさせることで、文化資源の保存活用に対する地域住民の意識向上やシビックプライドを醸成し、日本遺産のストーリーに親しみを感じられる地域を目指す。具体的には以下に取り組む。

#### 【取組 1 伝統的建造物群保存事業等の実施】

- ・有田町有田内山伝統的建造物群保存地区（国重要伝統的建造物群保存地区）の保存事業や公開活用事業の実施
- ・波佐見町鬼木、中尾地区の（波佐見町の文化的景観）文化的景観保護推進事業の選定実現

#### 【取組 2 文化・構成文化財の認知向上及び周遊】

- ・サインなどのハード面とガイド育成などのソフト面の両面の充実化
- ・ストーリー性を重視した構成文化財に関する情報発信
- ・地元住民や観光客が構成文化財ややきもの文化を理解し、紹介したくなる周遊コンテンツ等の開発及び継続

#### 【取組 3 構成文化財の正しい理解】

- ・児童・生徒を対象としたワークショップなどの取組による、地元理解の醸成
- ・地域住民に向けた体験や講座を通じた、構成文化財に触れ親しむ機会づくり

#### 【取組 4 構成文化財の活用のための財源確保】

- ・協議会の収益事業をはじめとする収益源の確保を進め、日本遺産のストーリーや構成文化財のさらなる活用や情報発信に繋げる。

#### 【取組 5 文化財保存活用大綱の方針に沿った文化財の保護・整備活用】

- ・文化財保存活用大綱（佐賀県・長崎県）に記載されている方針に沿って、更なる文化財の保護・整備活用の推進を図る。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	「肥前窯業圏」活性化推進協議会の運営		
概要	<p>佐賀・長崎両県にまたがる日本遺産「肥前窯業圏」の歴史的・文化的魅力及び陶磁器を核とした豊かな文化資源を活用し、地域活性化に資する事業を実施するために同協議会を設立した。</p> <p>窯業圏域の認知や魅力の向上等を図るために継続して協議会の実務担当者レベルの会議等を実施するほか、民間企業や窯元などとの関わりを増やし、事業の実施や各市町・産地での取り組みの共有等を実施する。</p>		
	取組名	取組内容	実施主体
①	担当者会議の運営・開催	肥前窯業圏の活動を今後も引き続き活発に行い、日本遺産の魅力を伝えられる事業を行うために、担当者会議を運営・開催し協議会活動の企画運営、窯業関係者や観光関係者との意見交換や合意形成を行う。	協議会 民間事業者
②	関係する企業・団体の増	協議会の活動に参画・協働する企業・団体を増やし、民間とも協働した、地域に根づく協議会として事業を進めていく。	協議会 民間事業者 窯元組合 観光協会 等
③	収入基盤の整備	協議会の安定的な運営のため、現在の収益事業を継続的に実施しながら、民間事業者などと協働し新たな収益事業を検討、拡大していく。	協議会 民間事業者 窯元組合 観光協会 等
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	「肥前窯業圏」活性化推進協議会 担当者会議の開催数		4回
2023			8回
2024			9回（見込み）
2025			6回
2026			6回
2027			6回
2028			6回
2029			6回
2030			6回
事業費	2025年度：3万円      2026年度：3万円      2027年度：3万円		
継続に向けた事業設計	協議会のメンバーにはDMOや民間企業・団体及び観光協会や窯元組合などが所属しており、活発な意見交換を行っている。ここに民間企業や団体との関わりを増やし、事業の実施や各市町・産地での取り組みの共有		

	等を実施して地域を活性化させ、協議会の存在意義を高めていく。
事業費	2028年度：3万円      2029年度：3万円      2030年度：3万円
継続に向けた事業設計	中長期的には、協議会の自走化に向け民間企業や団体との関わりを増やし、収益事業を多様化させつつ、着実に協議会の収益を増やし、自立に向けた筋道を立てていく。

(事業番号 1 - B)

事業名	安定的な協議会運営に向けた事業の促進
概要	現在、佐賀県と長崎県や構成市町による負担金収入をメインとして事業を行っているが、これだけに頼らない体制を作るために財源・収益を確保し、持続的な協議会の運営を図る。

	取組名	取組内容	実施主体
①	収益事業の実施	これまで収益事業として実施してきた「窯ガチャ」「公式 HP のアフィリエイト収入」等により協議会は収益をあげているが、これらの継続に加え、新たな収益事業も検討、実施していく。	協議会 民間事業者 窯元組合 観光協会 等
②	新しい地方経済・生活環境創生交付金の確保	佐賀・長崎の連携事業として交付金の交付を受けているが、引き続き交付金を申請・執行し、財源を確保する。	佐賀県・長崎県・及び市町
③			

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	協議会の自主事業で挙げた収益の合計額	200万円
2023		200万円
2024		－（※未集計のため）
2025		210万円
2026		220万円
2027		230万円
2028		240万円
2029		250万円
2030		260万円

事業費	2025年度：3,500千円    2026年度：3,500千円    2027年度：3,500千円
継続に向けた事業設計	事業を行うための費用を捻出できるよう、協議会の負担金や国からの交付金などの財源を活用しながら、更なる収益事業の検討を行う。
事業費	2028年度：4,000千円    2029年度：4,000千円    2030年度：4,000千円

<p>継続に向けた 事業設計</p>	<p>収益事業を増やししながら、負担金に頼らない安定的な協議会運営のため、収益事業の新規開発等に向けて具体的に協議・検討を進める。</p>
------------------------	---

(7) - 2 戦略立案			
(事業番号2-A)			
<p>事業名</p>	<p>日本遺産「肥前窯業圏」の今後のビジョンの検討・共有</p>		
<p>概要</p>	<p>日本遺産「肥前窯業圏」の今後の事業内容やターゲット、ビジョンなどを協議会全体で共有することで、効率よく皆が同じ方向を向いて事業を進めていく。協議会だけでなく各県・市町の計画にも位置付けることで、行政でも日本遺産を活用した地域活性化の取組を推進していく。</p>		
	取組名	取組内容	実施主体
<p>①</p>	<p>効果や現状の分析</p>	<p>イベント等や WEB でのアンケートを実施し、その結果を分析し、事業へ反映を行う。</p>	<p>協議会</p>
<p>②</p>	<p>『「肥前窯業圏」活性化推進協議会事業戦略』の更新</p>	<p>令和3年度に改訂した協議会の事業戦略の更新を行い、ターゲットやビジョン等を明確にする。</p>	<p>協議会 民間事業者 窯元組合 観光協会 等</p>
<p>③</p>	<p>総合計画等への「日本遺産」の位置づけ</p>	<p>佐賀県・長崎県・及び各市町の総合計画等に「日本遺産」の位置づけを行う。</p>	<p>佐賀県・長崎県・及び市町</p>

④	定例会議での KPI 達成状況の共有	担当者会議等で KPI の数値目標や達成状況を定期的に報告、メンバー間で課題や今後の方向性を共有する。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	担当者会議等での K P I 達成状況報告回数		1 回
2023			2 回
2024			2 回（見込み）
2025			3 件
2026			3 件
2027			3 件
2028			3 件
2029			3 件
2030			3 件
事業費	2025 年度：400 千円    2026 年度：400 千円    2027 年度：400 千円		
継続に向けた事業設計	令和 3 年度に策定した『「肥前窯業圏」活性化推進協議会事業戦略』をベースに、協議会において戦略の改定を行う。必要に応じて見直しを行う。		
事業費	2028 年度：400 千円    2029 年度：400 千円    2030 年度：400 千円		
継続に向けた事業設計	改定した戦略に沿ったターゲット層へ事業を実施しながら、協議会の総会などで県・市町に対し、今後の総合計画等の策定においても、日本遺産の活用による地域活性化の取組を位置づけるよう継続して呼びかける。		

(7) - 3 人材育成			
(事業番号 3 - A)			
事業名	日本遺産「肥前窯業圏」を伝え残していくプレイヤーなどの育成		
概要	日本遺産のストーリーや文化を正しく伝え、継承していくために、ガイドの育成を引き続き行うことに加え、地域を牽引する「地域プロデューサー、地域プレイヤー」の配置の検討を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ガイド・伝え手の育成	地域内のガイド協会等に参加しているガイドに対し、継続して日本遺産のストーリー等を伝え発信頂く。観光案内所やホテル・旅館など、旅行客が訪れる場所のガイドや従業員にも日本遺産を案内いただけるよう、普及啓発活動を継続する。	協議会 ガイド協会 民間事業者 窯元組合 観光協会 旅館・ホテル 組合 等

②	「地域プロデューサー、地域プレーヤー」の探索・配置検討	産地をよりよく、面白くしていこうという人材を探索し、産地の取り組みを牽引していただくことを引き続き検討していく。	協議会 民間事業者
③	圏域内成功事例の学びの場づくり	人材育成分野における、圏域内での成功事例を学ぶため、協議会での共有や勉強会等を実施する。	協議会 ガイド協会 窯元組合 観光協会
①	「まちの小さな観光案内所」の普及	①～③の取組を活用できるよう、民間事業者や関係団体と協働し各々の店舗等で来訪者に案内する。	協議会 ガイド協会 民間事業者 窯元組合 観光協会 旅館・ホテル 組合 等
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	日本遺産に関するセミナー受講者数		22人
2023			53人
2024			60人（見込み）
2025			60人
2026			60人
2027			70人
2028			70人
2029			80人
2030			80人
事業費	2025年度：1,600千円 2026年度：1,600千円 2027年度：1,600千円		
継続に向けた事業設計	現在実施している「肥前やきもの圏おもてなし力向上セミナー」を継続しながら、受講者の裾野を広げるなど改良を行っていく。		
事業費	2028年度：1,600千円 2029年度：1,600千円 2030年度：1,600千円		
継続に向けた事業設計	継続実施しながら、より日本遺産や肥前やきもの圏を積極的に発信したくなるよう、セミナー内容のブラッシュアップを行っていく。		

(7) - 4 整備

(事業番号4-A)

事業名	日本遺産のストーリーを伝える施設や解説の整備
概要	日本遺産「肥前窯業圏」のストーリーを来訪者に伝え、体験いただくために、解説コンテンツ等の整備により場所の発信拠点づくりを行う。

	取組名	取組内容	実施主体
①	ストーリーを伝える解説板などの設置や修繕	肥前窯業圏のストーリーや構成文化財の価値を伝える解説板の設置や既存の看板等の修繕や補修による整備を行う。	協議会 市町
②	やきもの文化を感じられる街並みの保存・活用	有田町にある有田内山伝統的建造物群保存地区を町家などの保存修理事業(国庫補助事業)により、伝統的町並み景観の回復と文化財的価値の向上が進み、更なる保存・活用につながっていく。波佐見町においては、「文化庁補助金歴史生き生き!施設等総合活用整備事業」を活用し、肥前波佐見陶磁器窯跡の整備を実施している。また、鬼木・中尾(陶郷)地区の(波佐見町の文化的景観)文化的景観保護推進事業の選定(文化庁)を受けるため現在準備を行っている。	佐賀県・長崎県 有田町・波佐見町
③	日本遺産紹介コーナーの整備	肥前窯業圏の各産地に日本遺産の情報やストーリーを伝えられる場所を、タペストリーやパンフレット、「窯ガチャ」などとともに設け、情報発信を行う。	協議会 民間事業者 窯元組合 観光協会等
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	肥前のやきもの文化を伝えられる拠点、及び日本遺産紹介コーナーの数(延べ数)		1箇所
2023			1箇所
2024			1箇所
2025			8箇所
2026			8箇所
2027			8箇所
2028			8箇所
2029			8箇所
2030			8箇所
事業費	2025年度:500千円 2026年度:500千円 2027年度:500千円		
継続に向けた事業設計	日本遺産を伝える拠点や日本遺産センターなどは、県有施設や協議会メンバーが保有する既存の施設を利用して日本遺産の周知を図ることを検討しており、ランニングコスト等をかけることなく運用していく。		
事業費	2028年度:500千円 2029年度:500千円 2030年度:500千円		
継続に向けた事業設計	紹介コーナーは、日本遺産自体のPR効果のほか、収益事業の売り上げにもつながるよう工夫した設置先を検討していく。		

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	日本遺産「肥前窯業圏」のコンテンツ増強事業		
概要	肥前窯業圏の魅力を体験し周遊していただけるように、周遊コンテンツの造成や、自走を目指した体験型コンテンツ・旅行商品・イベントなどの造成を行っていく。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産関連商品のコンテンツ造成や各地イベントでの販売	日本遺産のストーリーにまつわる商品コンテンツの新規開発や、既存商品を各地で販売することで、認知・来訪・体験の促進という流れを生み出し、圏域の観光振興を図る。	協議会 民間事業者 窯元組合 観光協会等
②	関連商品やコンテンツの販路拡大	上記で造成した商品・コンテンツのさらなる売上を目指し、観光スポット・文化施設等へ販売先を広げられるよう、積極的な販路拡大を行う。	協議会 民間事業者 窯元組合 観光協会等
③	定期的なイベントの実施・参加	福岡都市圏や肥前窯業圏域内でのイベント等を開催及び参加し、肥前窯業圏の認知向上や圏域内への来訪促進を図る。	協議会 民間事業者 窯元組合 観光協会等
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	日本遺産の関連商品のイベントでの販売回数		- (※新規指標のため)
2023			- (※新規指標のため)
2024			- (※新規指標のため)
2025			5件
2026			5件
2027			6件
2028			6件
2029			7件
2030			7件
事業費	2025年度：3,000千円 2026年度：3,000千円 2027年度：3,000千円		
継続に向けた事業設計	観光コンテンツやイベント、魅力発信を行いながら、開発されたコンテンツやイベントが地域に根付くよう、地域を中心とした実施や支援を行っていく。		
事業費	2028年度：3,000千円 2029年度：3,000千円 2030年度：3,000千円		
継続に向けた事業設計	イベントでのコンテンツPRに加え、さらなる売上増につながるよう、販路開拓も積極的に行い、継続して事業を行うための収益確保につなげる。		

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	地域住民への日本遺産「肥前窯業圏」普及啓発事業		
概要	日本遺産「肥前窯業圏」のストーリーややきもの文化の違いなどの認知や関心を高め、地域の文化に誇りをもっていただくよう普及啓発を行う		
	取組名	取組内容	実施主体
①	地域住民を対象にした普及啓発の実施	圏域内の地域住民(特に未来を担う小中高生)に対して、体験コンテンツ開発やセミナー実施を通じて、肥前窯業圏の理解促進や魅力発見を行っていただく。	協議会 窯元組合 観光協会 等
②	地域を巻き込んだイベントの実施・支援	地域が主体のイベントや体験コンテンツなどの造成・広報等での支援を図る。	協議会 民間事業者 窯元組合 観光協会 等
③	教育体験プログラムの整備	県や市町で実施する生涯学習セミナーのメニューとして、日本遺産や肥前のやきもの文化を学習できるようプログラム整備を行う。	佐賀県 長崎県 市町
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	日本遺産や認定ストーリー、構成文化財について学習した地域住民数		22名
2023			53名
2024			64名(見込み)
2025			70名
2026			70名
2027			80名
2028			80名
2029			90名
2030			90名
事業費	2025年度:1,600千円 2026年度:1,600千円 2027年度:1,600千円		
継続に向けた事業設計	体験型コンテンツ造成やセミナー開催により、地域のやきもの文化の理解を深めて頂くとともに、誇りの醸成を進める。		
事業費	2028年度:1,600千円 2029年度:1,600千円 2030年度:1,600千円		
継続に向けた事業設計	協議会事業のほか、県や市町の関連部署(生涯学習部署)とも連携し、予算をかけずに、地域住民の日本遺産ややきもの文化の学習の場を提供していく。		

## (7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	HP・SNSによる日本遺産「肥前窯業圏」情報発信事業		
概要	日本遺産「肥前窯業圏」の情報やストーリーを編集し、発信できるよう、協議会メンバーで協力した情報の更新や講座の実施等を行う		
	取組名	取組内容	実施主体
①	公式HPの運用・更新	協議会のメンバーが各産地で行われているイベント情報などを、HPで発信する。公式HPには旅行会社の宿泊予約サイトがリンクされており、予約を行うとアフィリエイト収入が得られるため、来訪につながる動線とそれに伴う収益も確保できる。	協議会 民間事業者
②	公式Instagramの運用・更新	アカウントを協議会メンバーが共有し、各自が有益で質の高い画像を投稿することで効率化を図りながら、閲覧者へやきもの圏に対する興味を持たせる。閲覧者は、公式HPへのアクセスが可能であり、さらに来訪へ向けた詳細な情報を獲得できる。	協議会 民間事業者
③	定期的な情報発信における協議会内でのプロセス整備	HPやSNSの掲載数を増やし、より日本遺産や肥前窯業圏に関心のある層にリーチできるよう、協議会内で積極的な投稿のための共通ルール等を整備する。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	日本遺産「肥前やきもの圏」公式Instagram フォロワー数		891 フォロワー (3月末時点)
2023			1,000 フォロワー (3月末時点)
2024			2,102 フォロワー (3月7日時点)
2025			2,300 フォロワー
2026			2,500 フォロワー
2027			2,700 フォロワー
2028			2,900 フォロワー
2029			3,100 フォロワー
2030			3,300 フォロワー
事業費	2025年度：400千円 2026年度：400千円 2027年度：400千円		
継続に向けた事業設計	情報の更新は協議会メンバー自らでルールを作り、協力しながら行っており、これを継続していく。特にSNSは低予算で効果的に情報発信できるツールのため、積極的に活用していく。		
事業費	2028年度：400千円 2029年度：400千円 2030年度：400千円		
継続に向けた事業設計	陶器市などのイベント情報のほか、協議会の事業推進の中での日常風景といった、ストーリーを身近に感じられるような記事・投稿もアップしていき、新規ファン層の獲得を行う。		

